

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 25 日現在

機関番号：32632

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20720080

研究課題名（和文） 日本におけるワイルド劇の受容に関する比較文学・比較文化的研究

研究課題名（英文） **Comparative Literary Studies: The Japanese Reception of Oscar Wilde's Plays**

研究代表者

日高 真帆 (HIDAKA MAHO)

清泉女子大学・文学部・准教授

研究者番号：90407619

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：比較文学、比較文化、英米文学、オスカー・ワイルド

## 1. 研究計画の概要

本研究計画では、日本におけるオスカー・ワイルドの戯曲の受容について比較文学・比較文化的研究を行う。具体的には、比較的受容度が高い悲劇作品『サロメ』と受容度が低い喜劇作品『ウィンダミア卿夫人の扇』『つまらない女』『理想の夫』『真面目が肝心』が置かれてきた対照的な状況に着眼し、更に、必要に応じて戯曲のみならず関連作品の受容についても視野に入れて考察を進め、日本におけるワイルド劇の受容像の構築を試みる。また、受容研究と関連づけてワイルドの喜劇と悲劇の本質的な相違を追究することで、ワイルド劇の再評価を行う。

## 2. 研究の進捗状況

三年間の研究期間を通して国内外のオスカー・ワイルドの研究動向を把握すべく関連資料の調査研究を進めると同時に、日本におけるワイルド受容史を俯瞰すべく関連資料の収集・分析を行った。その際、特に日本におけるワイルドの戯曲の受容について、悲劇作品と喜劇作品とが置かれてきた対照的な状況に着眼し、比較文学・比較文化的研究を進めた。

具体的には、まず、日本におけるワイルドの受容史における戯曲や関連作品の受容の

特徴について検証した。そして、日本では『サロメ』や『ドリアン・ 그레이の肖像』のような悲劇的作品の受容度が高いのとは対照的に、英国で高い評価を得てきた喜劇作品の受容度が低い点に着眼し、ワイルドの喜劇作品と悲劇作品の特質及び受容に伴う状況の差異について検証した。

また、現代におけるワイルドの戯曲及びその翻案の上演にも視野を広げると共に、日本と英語圏諸国におけるワイルド受容の相違点についても比較研究を進めた。それにより、日本におけるワイルド受容の有り様の変遷や特徴について考察を深めることができた。

更に、受容について理解を深めるためにも原作の分析が不可欠であることから、戯曲を中心としたワイルドの作品研究も行った。このように受容研究と作品研究を同時に進めることにより、日本において受容が立ち遅れていたワイルドの喜劇作品の再評価も行うことができた。

研究は毎年着実に進め、研究成果は図書出版や関連学会誌上での論文発表、国内外での学会発表等を通して発表してきた。特に国際学会での研究発表や海外での調査研究を通して、日本及び海外におけるワイルドの受容の基盤や受容状況の相違点について更に考察を深めて研究を発展させることができた。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

研究計画として掲げた点をおおむね順調に究明してきており、その研究成果は毎年、図書出版や関連学会誌上での論文発表、国内外での学会発表等を通して公表することができた。唯、元来時代範囲も関連領域も広範な研究である上、日本におけるワイルド劇の受容像を明らかにするには、次項で述べるようにより多角的な視野に立った比較研究が求められることが判明したため、研究計画の更なる拡張と調整が必要となった。

### 4. 今後の研究の推進方策

当該研究に従事する中で、日本におけるワイルド劇の受容の特徴を明らかにするには、ワイルドの活躍の場であったロンドンや出身地であるダブリンを始めとして、関連性の高い英語圏の諸都市での受容状況にまで視野を広げた比較研究をより重点的に行う必要性和意義を強く認識するに至った。

そのように研究範囲を拡張するには本研究の当初の計画にあった四年間では不十分であるため、最終年度前年度に、より発展的な研究課題で科学研究費の申請を行い、2011年度からは基盤研究(C)での三年計画の新たな研究課題「ワイルド受容の系譜—日本と英語圏諸国との比較研究—」により本研究を引き継ぎ、一層発展させることとなった。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

1. 単著「オスカー・ワイルドの機智—日本に於けるワイルド受容に関する一考察—」日高真帆、『比較文化研究』第85号、日本比較文化学会、PP.153-162、2009年、査読有
2. 単著「オスカー・ワイルドとアメリカ、そしてオーストラリア」日高真帆、*British*

*Drama Studies* 第4号、英国演劇協会、PP.15-28、2008年、査読有

[学会発表] (計5件)

1. 日高真帆、“Japanese Transfigurations of *Salomé*”、IASIL (The International Association for the Study of Irish Literatures)、2010年7月27日、National University of Ireland, Maynooth
2. 日高真帆、「錯綜する知覚世界—ワイルド作『サロメ』に関する一考察—」西洋比較演劇研究会、2010年1月23日、成城大学
3. 日高真帆、“Japanese Reception of Oscar Wilde: Comedy and Tragedy”、IASIL (The International Association for the Study of Irish Literatures)、2009年7月28日、University of Glasgow, Scotland
4. 日高真帆、「ワイルド作品に於ける異文化の表象—英米豪を中心に—」2008年アイルランド研究年次大会、2008年11月29日、大阪経済大学
5. 日高真帆、「機智の越境—日本に於けるワイルド喜劇の受容—」日本比較文化学会第30回全国大会、2008年6月14日、京都大学

[図書] (計2件)

1. 共著『女性・演劇・比較文化』丸橋良雄、廣田麻子、日高真帆他12名、14番目、総頁数187頁、担当部分：単著論文「愛の交錯—ワイルド喜劇を巡る愛—」(PP.160-171)英光社、2010年、査読有
2. 共著『英国演劇の真髓—ユーモア・ウィット・エキセントリシティー』門野泉、丸橋良雄、日高真帆、総頁数213頁、担当部分：単著論文「オスカー・ワイルド」(PP.150-204)英光社、2010年、査読無